

4月9日、羽田から約3時間20分のフライトで北京空港に到着。長い行列に並び入管手続きに40分要した後、陽原県林業局出迎えのワゴン車で空港を出発し陽原県に向かいました。道中、ほとんど家が見えず、長いポプラの街路樹と、時折、植林した直後の様な等間隔で植えられた背の低い松や、白い花を付けた杏の畑が見られるものの、草もない荒野・黄土といった風景が延々と続いていました。家並みのある陽原県は、まるで西部劇の荒野の中の街の様でした。1~2キロあるかないかの街を抜ければ荒野が続いているのです。

陽原県到着後直ちに今後の方針を含めた意見交換会と交流会を開きました。我々一行は、倉吉グレートライオンズクラブ会員を含めての7名で、中国側は、河北省林業庁副庁長以下3名、張家口市林業局副局長1名、陽原県からは人民政府県長、陽原県林業局長、副局長の3名、植林請負の有限公司の2名の合計9名でした。乾杯は、中国の焼酎？バイチュウ（白酒）を小さいガラスのグラスに並々と注ぎ、テーブルをトントンと叩いて、カンペイと一気に飲み干し、グラスを逆さにして残っていないよと見せる方法で、全員で、または一人ずつ宴会中、何回も繰り返されるのです。紹興酒はと聞いたたら、ここにはないとのこと



でした。中国語は話せませんが、通訳のお陰で和やかな宴席となりました。

翌日は、ホテルを早朝に出発し、昨年度植林した場所を視察しました。松と杏の木35haで、日中友好交流を謳い上げた看板の前で写真を撮り、その後本年度植林予定の場所に行きました。予定は35haで、準備してあった杏の苗木をスコップで土を掛け植林のデモンストレーションを行いました。訪中時は未だ寒く、実際に植林するのは4月下旬に杏、6月に松とのことでした。

その後ホテルに帰り、覚書の調印式がありましたが、今後の活動方針を再度確認し、双方からの要望を真摯に受け止め、更なる交流の深化を誓いました。

終わってから食事をし、中国料理を堪能しましたが、やはり毎食の中国料理なので、日本食が恋しくなりました。

一通りの日程が終了し、ホテルをチェックアウトして北京へと移動し、無事帰ってまいりました。

まだまだ書ききれない色々な経験をさせていただきました。お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

